

平成 23 年 2 月に発生したトラブル事象について ( 1 / 3 )

		区分Ⅳ
件名	車載トランスコア解体装置における作動油の漏洩	
発生日時	平成 23 年 2 月 4 日(金) 10 時 32 分頃	
発生場所	処理棟1階 大型/車載トランス解体エリア コア解体装置(管理区域レベル3)	
環境への影響	なし	
PCB 汚染の可能性	人への影響なし	
概要(時刻は頃) (応急措置等)	<p>・車載トランスコア解体工程は、容器の上蓋を切断後に取り出した内部部材である「コア」を細かく解体し、部材毎に洗浄カゴに分別する工程である。コア解体装置は油圧駆動のターンテーブルを有している。</p> <p>【時系列】</p> <p>2/1 コア解体装置の点検を実施。このときは発生場所における漏洩はなかった。</p> <p>2/4 10:32 大型/車載トランス解体エリアで作業中の作業員が、車載トランスのコア解体装置のテーブル下にあるオイルパン(305×180×45・容量は 2.5 リットル)から作動油が床に溢れているのを発見。床への漏洩範囲は 3. 5m×2m 程度</p> <p>10:45 運転会社から JESCO に第一報連絡。油圧ユニットを停止</p> <p>11:00 現場にて拭き取り作業開始</p> <p>11:10 漏洩油のサンプリングを実施(床上:13.9mg/kg、オイルパン内:18.9mg/kg)</p> <p>11:32 漏洩箇所を油圧配管内の圧力計からの漏洩と特定し、油圧ユニットの元弁を閉止。漏洩量は油圧ユニットのタンクの減量分から約 17.5 リットルと推定</p> <p>12:15 現場にて拭き取り作業終了</p>	
事象による影響	・発生原因及び再発防止策の行政説明完了までの間、車載トランスのコア解体作業を中止(2/4～2/8)、2/9 よりコア解体装置を使用した作業の再開	
発生原因	<p>・圧力計を分解した結果、圧力計内のブルドン管の破損(ブルドン管根本のロウ付け部分に 0.2mm 程の穴がロウ付け表面のはがれで生成)が確認された。</p> <p>・平成 21 年 6 月に発生した減容圧縮機の圧力計からの漏洩事象の水平展開として、圧力設定時に使用してその後使用していない圧力計については、元弁を取り付けて常時閉止するか、圧力計を取り外して閉止プラグを取り付けることとしていた。今回漏洩した圧力計は、設置場所が作業台の下で確認しにくい箇所にあった。また、拭き取り作業後に車載トランスコア解体装置の油圧ユニット内を確認した結果、元弁のない圧力計が漏洩箇所の他に4個確認された。</p>	
再発防止対策	・2/4 中に、同一油圧ユニット内の水平展開未処置の圧力計5個(漏洩した圧力計を含む)について、圧力計を取り外して閉止プラグを取り付けた。	
水平展開	<p>・2/15～28に解体エリア(大型、小型、コンデンサ)、払出室及び攪拌洗浄エリアの油圧ユニットの圧力計について元弁の有無を調査した。</p> <p>その結果、元弁が付いていない圧力計が上記以外に解体エリアで8個、払出室で2個確認された。このうち、小型解体エリアの2個について2/16に元弁取付工事を実施したところ、工事中に作動油の漏洩事象が発生した(別途報告)。残りの8個については3/25までに元弁取り付け又は閉止プラグ処置を実施する。</p>	
連絡・公表の状況	<p>・事象区分の判断:区分Ⅳの1①「(1週間未満)の設備の停止を伴わずに修復できた PCB等法令で定める有害な物質の施設内での漏洩」に該当</p> <p>・対外対応:</p> <p>2/4 11:20～ 市消防予防課、胆振総合振興局、室蘭市及び北海道に電話第一報</p> <p>2/4 11:40 及び 2/7 10:20 予防課員による立入調査</p> <p>2/8 15:00迄に道及び市に事象概要、発生原因及び再発防止策を説明</p> <p>15:40に本油圧ユニットの使用再開了解</p> <p>報告・公表:「通報連絡・公表の取扱い」に基づく報告として、3/10 に報告書を北海道及び室蘭市に提出し、PCB処理情報センターに配備した。</p>	

件名

車載トランスコア解体装置における作動油の漏洩

図・写真



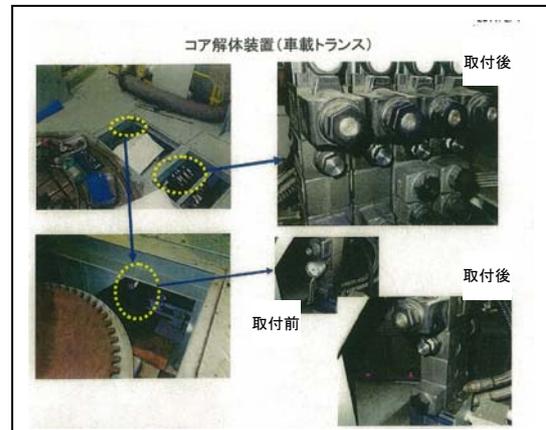
漏洩状況（黄色が作動油）



圧力計



圧力計内部の状況



閉止プラグ取り付け後の油圧装置

